

# 中仙地域

保存版

# 防災 ハザードマップ



令和4年3月

## WEB版ハザードマップを活用しよう！

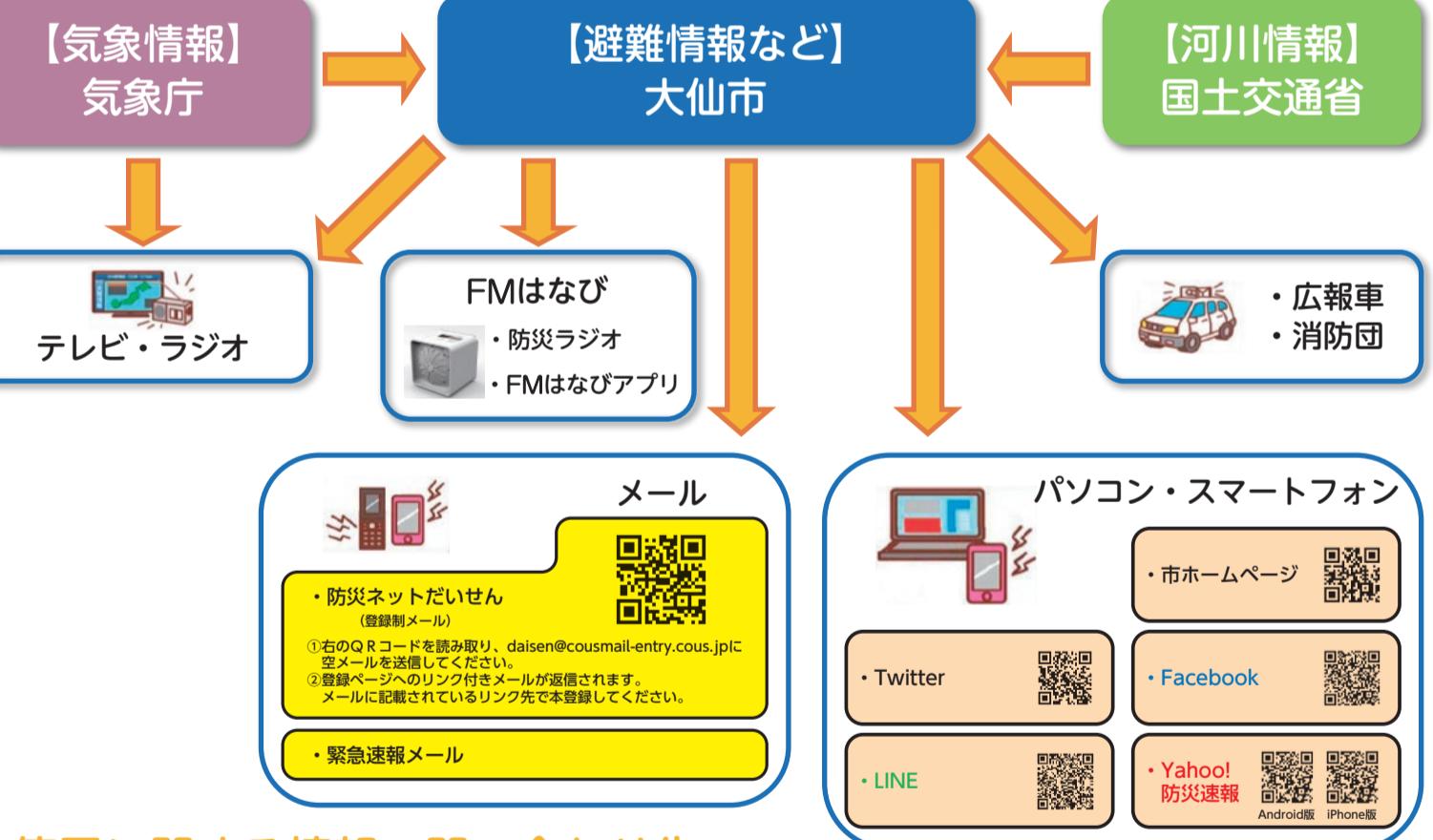
スマホやパソコンからいつでもどこでも【より詳細な】ハザードマップが確認できます！



大仙市役所【災害時対策本部】0187-63-1111

神岡支所 0187-72-2111 南外支所 0187-74-2111  
西仙北支所 0187-75-1111 仙北支所 0187-63-3003  
中仙支所 0187-56-2111 太田支所 0187-88-1111  
協和支所 018-892-2111

## i 災害時の情報伝達について

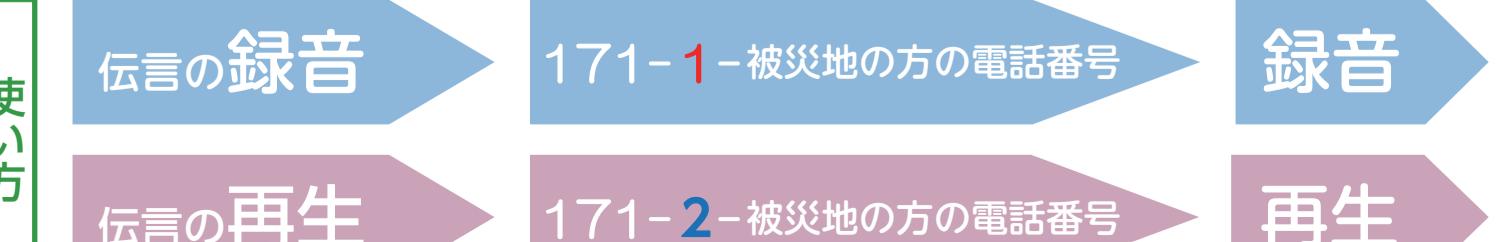


停電に関する情報・問い合わせ先



## NTT災害用伝言ダイヤル171

災害発生時、電話が繋がりにくい状況になった場合に提供が開始される伝言板です。



## 警戒レベルについて

行政機関から提供される警戒レベルについて確認しましょう。

□発令される避難情報等、国や都道府県から提供される防災気象情報には、以下のものがあります。<sup>※1</sup>

警戒レベル	状況	住民に求める行動	避難情報等	防災気象情報
5	災害発生または初迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保 <sup>※2</sup> 市が発令	大雨特別警報 氾濫発生情報
<b>&lt;警戒レベル4までに必ず避難！&gt;</b>				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示 市が発令	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 <sup>※3</sup>	高齢者等避難 市が発令	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 気象庁が発表	
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 気象庁が発表	

※1 必ずしその順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。  
※2 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。  
※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の方でも、必要に応じて普段の行動を見合わせたり、危険を感じたら自動的に避難するタイミングです。

## 火災警報器の設置について

### 火災予防が一番!!

#### 火災警報器の設置義務化

平成16年6月の消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

今後、更に高齢者が進む中で、火災による死者を無くすために必ず設置しましょう。ご不

意な点は、消防法まで。

火災警報器の設置場所

- 寝室・すべての寝室（子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります）への設置が必ずです。
- 階段・1階以外に寝室がある場合の階段に設置が必要です。
- 台所・仮眠室はありますかが、火を取扱うような場所に設置するとより安全です。

※注意：設置から1ヵ月が経過したものは、電池切れや電子部品が劣化していることがありますため、本体の交換をおすすめしています。また、いさといっ時に作動しなかったりあることがないように定期的に点検をします。



## 地震対策について

### 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

#### 地震発生

とにかく自分の身を守ろう!  
地震だ！まず身の安全  
大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低く、頭を守り、揺れが止まるまで立ち直り。

#### シェイクアウトを行いましょう!



しっかり火の始末で、火災防止!  
大搖れが止まった  
台所やスーパーなどの始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を開いてください。



わが家の安全確認、確保!  
火の始末のあと  
家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。



2.3日は自分でしのぐ！  
避難後、数日間  
地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から生活必需品（非常用品）を準備し、自分でしのげるようしておきましょう。



#### 屋内にいた場合

##### 家中

●揺れを感じたら、身の安全を確保し、しばらく屋外の安全な場所へ避難する。  
●揺れが止まるとすぐに確認はみやかに（コンセントやガスの元栓の廻りは忘れずに）。  
●乳幼児や病人、高齢者などは支援者の安全を確保する。  
●揺れで歩きづらい（ガラスの破片などでケガをする）。

##### デパート・スーパー

●カバードなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

##### 劇場・ホール

●カバードなどで頭を保護し、席の間に身を隠す。係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。

●ドアや窓を開けて避難口を確保する。  
●避難にレバーベーは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

##### 集合住宅

●ドアや窓を開けて避難口を確保する。  
●避難にレバーベーは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

#### 屋外にいた場合

##### 路上

●その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下來から頭やカバンなどを保護して、空き地や公園などの安全な場所へ避難する。  
●近くに空き地がないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。  
●手探りで走りながら、車両などの危険な車両などは近づかない。  
●倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

##### 車を運転中

●ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両の通行のベースを確保し、道路の左側に止め、工停させる。  
●途中で止まつても、車両によっては危険な車両がいる場合、ドアロックを外さないで、車両のドアを閉め、運転席から車両を離れて、運転席から車両を離れる。  
●乗車する際は、ドアを閉め、運転席から車両を離れる。

●車を運転する際は、ドアを閉め、運転席から車両を離れる。

##### 海岸付近

●高台に避難し、津波情報をよく聞く。注意報、警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

##### 電車などの車内

●つま先や手すりに両手でしっかりと握り、車両が止まつても、車両のドアを閉め、運転席から車両を離れる。

##### 車両などの車内

●つま先や手すりに両手でしっかりと握り、車両が止まつても、車両のドアを閉め、運転席から車両を離れる。

## 土砂災害について

### 土砂災害の種類

#### がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や雪などによる影響によって急速に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは、突然起きたため、人間の近くで起きると逃げられると多く、被害者の割合も高くなっています。

#### 土石流

山腹の石や土石が長雨や集中雨などによって一気に下流へと押し流されることがあります。その流れの下は、規則によって異なるが、時速20~40mという速度で、脇のうちには人家や畠などを壊滅させてしまいます。

#### 土石流発生

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面方に移動する現象のことです。一般的に移動土塊が大きいため、甚大な被害を被ります。また一旦動き出すと、これで完全に停止することはありません。

#### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面方に移動する現象のことです。一般的に移動土塊が大きいため、甚大な被害を被ります。また一旦動き出すと、これで完全に停止することはありません。

\*上記は一般的な現象です。すべての場合において必ず起きるというのではありません。ふだんは、少しでも危険を感じたら避難するようにしましょう。

### 土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

#### 土砂災害 特別警戒区域（レッドゾーン）

#### 土砂災害 警戒区域（イエローゾーン）

#### 土砂災害のおそれがある区域

### 避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。

上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、警戒（様子をおかしいと感じたら、ただちに避難行動をとってください）

1 土砂災害警戒区域内外、また指定が無くとも（家の出入口）や「がけの下」からは、いち早く退散する。

#### アンダーパスは危険

道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、本当に水没する。場所を把握し、迂回路を想定しておこう。

3 外出もし危険が伴う状況で、やむなく自宅に移動する場合は、2階以上の出来たがれから離れた部屋に移動する。

（ページ内の図は気象庁ホームページより抜粋、編集）



## 避難行動判定フロー

### 平時に確認！

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、るべき行動の確認をしましょう

あなたがとるべき避難行動は？

必ず取り組みましょう

※ハザードマップは浸水や土砂災害などの災害が発生するおそれが高い区域を着色した地図です。色が塗られていないところでも災害は起こる可能性があります。

在宅避難

色が塗られていないところでも、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必ずに応じて避難してください

在宅避難

自宅が傾て、想定される浸水深が3m未満の場所では、2階以上に避難し、安全確保をすることも可能です

いいえ

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

いいえ

高齢者等避難（警戒レベル3）が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう

いいえ

高齢者等避難（警戒レベル4）が出たら、大仙市が指定